

第1章．日本の貿易相手として東アジアの重要性は増加しているか

本章は、日本の貿易相手として東アジアの重要性が増加しているかを、貿易統計および国際産業連関表分析を通じて検証する。FTA を始めとして、日本の対東アジア政策の重要性が叫ばれる昨今、実際に、日本の貿易相手として東アジアの重要性が増加しているか、

かつて日本の貿易黒字の大半を占めていた米国の重要性は低下しているか、を中心に議論を展開する。第1節および第2節は、日本および中国の国別輸出・輸入統計を利用して、貿易額・シェアの量的側面から分析を行っている。第3節は、国際産業連関表を用いて、経済規模を考慮した質的側面から分析を加えることで、量および質による多角的な検証を行った。

第1節 日本の国別貿易統計からの検証

日本の国別輸出・輸入統計を図表1-1および図表1-2に示す。

(図表1-1) 日本の国別輸出

輸出先	金額(百万米ドル)					シェア(%)				
	1985	1990	1995	2000	2004	1985	1990	1995	2000	2004
東アジア	24,801	39,074	82,037	97,006	160,146	14.00%	13.58%	18.52%	20.29%	28.32%
中国	12,590	6,145	21,934	30,356	73,917	7.10%	2.10%	5.00%	6.30%	13.10%
韓国	7,159	17,500	31,292	30,703	44,247	4.00%	6.10%	7.10%	6.40%	7.80%
台湾	5,052	15,429	28,811	35,947	41,982	2.85%	5.36%	6.50%	7.52%	7.42%
ASEAN10	11,701	33,406	77,912	68,511	72,977	6.60%	11.60%	17.60%	14.30%	12.90%
ASEAN5	11,261	32,980	76,596	66,211	69,488	6.40%	11.50%	17.30%	13.80%	12.30%
インドネシア	2,191	5,052	9,969	7,604	9,075	1.20%	1.80%	2.30%	1.60%	1.60%
マレーシア	2,184	5,529	16,802	13,886	12,565	1.20%	1.90%	3.80%	2.90%	2.20%
フィリピン	946	2,510	7,100	10,257	9,598	0.50%	0.90%	1.60%	2.10%	1.70%
タイ	2,047	9,150	19,719	13,634	20,274	1.20%	3.20%	4.50%	2.90%	3.60%
シンガポール	3,893	10,739	23,006	20,830	17,976	2.20%	3.70%	5.20%	4.40%	3.20%
米国	66,684	91,121	122,034	144,009	128,606	37.60%	31.70%	27.50%	30.10%	22.70%
欧州	23,526	59,627	71,422	80,544	89,296	13.30%	20.70%	16.10%	16.80%	15.80%
世界	177,189	287,678	443,047	478,179	565,487	-	-	-	-	-

(出所) IMF

(図表 1 - 2) 日本の国別輸入

	金額 (百万米ドル)					シェア (%)				
	1985	1990	1995	2000	2004	1985	1990	1995	2000	2004
東アジア	14,078	32,309	67,573	93,519	133,072	10.79%	13.73%	20.11%	24.64%	29.26%
中国	6,534	12,057	35,922	55,156	94,335	5.00%	5.10%	10.70%	14.50%	20.70%
韓国	4,144	11,743	17,330	20,454	22,063	3.20%	5.00%	5.20%	5.40%	4.90%
台湾	3,400	8,509	14,321	17,909	16,674	2.61%	3.62%	4.26%	4.72%	3.67%
ASEAN10	20,441	29,975	48,404	59,546	67,407	15.70%	12.70%	14.40%	15.70%	14.80%
ASEAN5	18,433	28,050	45,215	55,072	61,370	14.10%	11.90%	13.50%	14.50%	13.50%
インドネシア	10,192	12,744	14,199	16,371	18,652	7.80%	5.40%	4.20%	4.30%	4.10%
マレーシア	4,347	5,411	10,545	14,490	14,093	3.30%	2.30%	3.10%	3.80%	3.10%
フィリピン	1,252	2,149	3,495	7,190	8,243	1.00%	0.90%	1.00%	1.90%	1.80%
タイ	1,035	4,164	10,130	10,595	14,099	0.80%	1.80%	3.00%	2.80%	3.10%
シンガポール	1,607	3,581	6,846	6,426	6,283	1.20%	1.50%	2.00%	1.70%	1.40%
米国	26,099	52,842	75,880	72,514	63,605	20.00%	22.50%	22.60%	19.10%	14.00%
欧州	10,339	38,159	49,332	47,639	57,897	7.90%	16.20%	14.70%	12.60%	12.70%
世界	130,516	235,307	336,027	379,530	454,816	-	-	-	-	-

(出所) IMF

貿易統計を見ると、日本 - 東アジアの輸出・輸入の金額・シェアが、大きく上昇しており、日本 - 米国の輸出・輸入の金額・シェアは、2000 年前後を境として、高止まりの感がある。この傾向を見ると、東アジアの重要性が向上し、米国は低下しているように思える。

また、対東アジア貿易を国別で詳細にみると、1990 年代半ば以降の輸出・輸入の金額・シェア増加は、対中国貿易の急速な拡大が主因であり、中国以外の東アジア諸国の影響は殆どない。ASEAN 諸国は、金額面では上昇しているが、シェアは 2000 年以降下落傾向にある。従って、近年の日本の貿易動向は、中国が強調されるだけであり、東アジア全体の重要性について確認することはできない。

第 2 節 中国の国別貿易統計からの検証

前節では、日本の貿易増加の主因は、対中国貿易の増加であり、東アジア全体の重要性に対して疑問符がついた。そこで、本節は、中国の国別貿易動向 (図表 1 - 3、図表 1 - 4) を俯瞰することで、疑問の解決に向けた手掛かりを得ることを目的とする。

(図表 1 - 3) 中国の国別輸出

	金額 (百万米ドル)					シェア (%)				
	1985	1990	1995	2000	2004	1985	1990	1995	2000	2004
日本	6,091	9,766	10,596	41,654	73,514	22.29%	14.06%	7.12%	16.72%	12.39%
アジア	10,704	34,774	59,610	82,860	198,341	39.17%	50.05%	40.04%	33.25%	33.43%
韓国	-	-	6,688	11,293	27,818	-	-	4.49%	4.53%	4.69%
台湾	-	-	3,095	5,040	13,545	-	-	2.08%	2.02%	2.28%
ASEAN5	2,803	3,924	9,001	15,095	37,104	10.26%	5.65%	6.05%	6.06%	6.25%
インドネシア	124	412	1,438	3,062	6,259	0.45%	0.59%	0.97%	1.23%	1.06%
マレーシア	186	405	1,281	2,565	8,087	0.68%	0.58%	0.86%	1.03%	1.36%
フィリピン	314	211	1,030	1,464	4,269	1.15%	0.30%	0.69%	0.59%	0.72%
タイ	116	882	1,752	2,243	5,802	0.42%	1.27%	1.18%	0.90%	0.98%
シンガポール	2,063	2,014	3,500	5,761	12,687	7.55%	2.90%	2.35%	2.31%	2.14%
米国	2,336	7,372	37,851	52,162	125,155	8.55%	10.61%	25.42%	20.93%	21.10%
欧州	955	1,560	3,734	7,265	25,987	3.49%	2.25%	2.51%	2.92%	4.38%
世界	27,329	69,478	148,892	249,195	593,232	-	-	-	-	-

(出所) IMF

(図表 1 - 4) 中国の国別輸入

	金額 (百万米ドル)					シェア (%)				
	1985	1990	1995	2000	2004	1985	1990	1995	2000	2004
日本	15,178	7,869	28,602	41,520	94,372	35.73%	13.42%	21.66%	18.44%	16.81%
アジア	7,096	22,473	44,472	82,726	211,212	16.70%	38.33%	33.67%	36.74%	37.62%
韓国	-	-	10,288	23,208	62,250	-	-	7.79%	10.31%	11.09%
台湾	-	-	14,785	25,497	64,779	-	-	11.20%	11.32%	11.54%
ASEAN5	1,129	3,185	9,403	20,999	59,996	2.66%	5.43%	7.12%	9.33%	10.69%
インドネシア	330	838	2,053	4,402	7,224	0.78%	1.43%	1.55%	1.95%	1.29%
マレーシア	198	858	2,065	5,480	18,174	0.47%	1.46%	1.56%	2.43%	3.24%
フィリピン	97	88	276	1,677	9,059	0.23%	0.15%	0.21%	0.74%	1.61%
タイ	263	416	1,611	4,380	11,542	0.62%	0.71%	1.22%	1.95%	2.06%
シンガポール	241	985	3,398	5,060	13,997	0.57%	1.68%	2.57%	2.25%	2.49%
米国	5,199	6,294	14,882	22,376	44,773	12.24%	10.73%	11.27%	9.94%	7.97%
欧州	1,459	2,596	5,531	8,532	19,144	3.43%	4.43%	4.19%	3.79%	3.41%
世界	42,480	58,632	132,063	225,174	561,422	-	-	-	-	-

(出所) IMF

中国の輸出・輸入傾向を見ると、対世界の貿易額が1990年以降、急速に拡大しており、特にアジア・米国を中心に増加している。日本に対しては、対世界貿易拡大の影響から、2004年のシェアは低下している。

それでは、日本の貿易相手国の重要性は、東アジア全体ではなく、中国のみに限定して増加していると言えるか。更に、今後の日本の貿易収支動向は、中国の経済成長の如何に左右されるのか。この現状を整理するためには、日本および中国を除いた東アジア諸国側からの視点と中国側からの視点の2つの視点から捉えることが有用である。量的側面で、日本および中国を除いた東アジア諸国から中国を見ると、その重要性は顕著に高まっている。逆に、中国側の視点から日本を見ると、その重要性は低下している。つまり、日本から中国を含めた東アジアの重要性を量的側面だけで見ると、中国が世界規模で輸出・輸入を拡大させている影響を完全に排除して考慮できないため、単純に結論付けることは尚早である。

第3節 国際産業連関表⁴による検証

前節では、日本から東アジア全体の重要性を計る際に、中国の個別要因の影響が強く反映してしまう問題が浮上した。この影響を排除する手段として、東アジアを、「中国」と「中国以外の東アジア」に分けることが有用である。また、本節では国際産業連関表を用いて、質的側面から命題を検証する。ここで言う「質的」とは、各国の経済規模を考慮することである。貿易相手国の重要性は、貿易額の大きさだけでなく、貿易相手国の規模も影響すると考えられるためである。

まず、日米中の国際産業連関表を作成し、生産誘発額を、1995年表と2000年表で比較した(図表1-5)。国際産業連関表は、相互依存関係の強さ・生産工程の結びつきの強さを測定する指標である。生産誘発額の上昇は、その国の他国に与える影響が大きくなっていることを示す。生産誘発額の規模は、最終財需要を発する国の大きさに依存するので、アメリカと日本が中国より大きい。

⁴ 国際産業連関表は、付注1を参照。

(図表 1 - 5) 国際産業連関による生産誘発額 (%)

最終需要 1%変化の場合の生産誘発額	日本		アメリカ		中国	
	1995	2000	1995	2000	1995	2000
日本	0.966%	0.963%	0.013%	0.017%	0.004%	0.005%
アメリカ	0.006%	0.004%	0.985%	0.989%	0.001%	0.001%
中国	0.017%	0.015%	0.014%	0.018%	0.953%	0.955%
インドネシア	0.038%	0.057%	0.013%	0.018%	0.007%	0.017%
マレーシア	0.050%	0.064%	0.077%	0.135%	0.015%	0.025%
フィリピン	0.020%	0.027%	0.044%	0.079%	0.002%	0.005%
シンガポール	0.024%	0.020%	0.067%	0.068%	0.015%	0.020%
タイ	0.024%	0.035%	0.025%	0.047%	0.006%	0.010%
韓国	0.019%	0.021%	0.025%	0.040%	0.013%	0.020%
台湾	0.024%	0.015%	0.043%	0.037%	0.011%	0.010%
自国及び太平洋	0.342%	0.259%	0.482%	0.560%	0.067%	0.087%
自国	0.966%	0.963%	0.985%	0.989%	0.953%	0.955%
太平洋	0.010%	0.009%	0.018%	0.024%	0.003%	0.004%
東アジアの誘発額の差分		0.0004		0.0014		0.0004

(出所) アジア経済研究所及び高川など (2004) を基に阿部推計

日本の「東アジアの誘発額の差分⁵」を見ると、1995年と比較し2000年は、0.0004増加している。また、中国も0.0004、米国に関しては0.0014増加している。この結果、日米中の東アジアに対する影響力は増大している。中国の日本に対する誘発額を見ると、1995年0.004%から2000年には0.005%と増大している。従って、各国の経済規模を考慮しても、中国は日本の貿易相手国として重要性を増大させていると言えよう。それでは、日本にとっての中国以外の東アジアの重要性は増加しているか。図表1-5は、日米中の誘発額を東アジア諸国のGDP比で計測しているため、GDPの成長如何によっては、2000年の誘発額(%)が小さく計測される場合がある。そこで、誘発額を絶対額で見た結果を図表1-6に示す。

⁵ 「東アジアの誘発額の差分」の「東アジア」は、日本、中国、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、韓国、台湾を指す。但し、差分の計算に当たっては、自国の変化額を含んでいない。当該指数は、東アジアへの影響力の増減を見るために作成しており(値がプラスもしくはマイナス)、数値の大小は関係ない。

(図表1 - 6) 国際産業連関による生産誘発額(絶対額、千米ドル)

最終需要1%変化の場合 の生産誘発(絶対額)	日本		アメリカ		中国	
	1995	2000	1995	2000	1995	2000
日本	94,158,543	83,433,347	1,312,224	1,479,017	377,042	413,849
アメリカ	824,167	778,806	132,587,056	178,490,402	195,927	243,544
中国	315,978	412,984	264,688	499,310	17,869,335	27,047,260
インドネシア	166,363	194,232	58,141	62,433	29,096	57,116
マレーシア	103,299	145,568	158,100	304,022	31,299	56,893
フィリピン	28,371	38,794	62,269	114,763	3,485	7,100
シンガポール	54,408	50,572	149,293	169,888	32,808	49,063
タイ	86,377	93,208	90,118	125,339	19,993	27,289
韓国	198,398	227,891	269,344	423,794	135,183	216,666
台湾	133,868	98,289	242,032	241,048	64,950	64,497
自国及び太平洋	96,069,774	85,473,691	135,193,264	181,910,015	18,759,120	28,183,278
自国	94,158,543	83,433,347	132,587,056	178,490,402	17,869,335	27,047,260
太平洋	1,911,231	2,040,343	2,606,208	3,419,613	889,785	1,136,018
中国以外の東アジア	771,086	848,554	1,029,296	1,441,286	316,816	478,625

(出所) アジア経済研究所及び高川など(2004)を基に阿部推計

「中国以外の東アジア」の行を見ると、東アジア諸国に対する日本からの誘発額が増加している。国際産業連関表は、生産工程の結びつきの強さを測定する指標であるため、誘発額(絶対額)の上昇は、日本と東アジア諸国の貿易の緊密性が1995年以降も上昇していることを示唆する。よって、日本の貿易相手国として中国以外の東アジアの重要性も増大していると言えよう。

米国については、日本への誘発額(%)が1995年0.013%から2000年0.017%、絶対額も上昇していることから、依然として日本の重要な貿易相手国である。

第4節 結論

本章は、「日本の貿易相手国として東アジアの重要性が増大しているか」を、貿易統計および国際産業連関表を用いて、量・質の両側面から検証を行った。その結果、貿易統計による金額およびシェア、国際産業連関表の誘発額を見ても、日本の貿易相手として中国の重要性が顕著に増大していることが判明した。中国以外の東アジア諸国に関しては、貿易統計の量的側面から見ると、金額面では増加しているが、シェアは、中国の影響を受け減少していた。しかしながら、国際産業連関表分析によると、日本の中国以外の東アジア諸国への誘発額は、1995年から2000年にかけて増加しており、日本と2国間の貿易の緊密性

は高い。このことから、中国以外の東アジアの重要性も大きいと推測される。米国については、日本への誘発額が増加しており、依然として重要な貿易相手国と言える。